

心を一つにした 「甲子園」

センターポールに八女高の旗が翻った!!

八女中・高の 同窓会新聞

題字 山口修一氏(高14回)

第13号

発行日/平成27年5月25日
 発行/八女中・八女高同窓会
 TEL(0942) 53-4184 FAX52-0341
 編集/八女中・八女高同窓会事務局
 〒833-041
 福岡県筑後市大字和泉251
 福岡県立八女高等学校内

昭和三十三年夏

何度も手が届きそうであと一歩届かなかった高校球児憧れの地。しかし昭和三十三年夏、ついにあの甲子園のセンターポールに八女高の旗が翻った!

チャンスは過去にも何度かあった。特に大正十二年には九州大会で優勝したものの、当時の福岡県知事が県外試合を禁止していたために全国大会に出場できず無念の涙を飲んだ。また、昭和二十四年もあと一勝というところまで登り詰めたが宿敵・小倉高校に敗れ夢を果たせなかった。しかしこの時エースとしてチームを支えたのが後に甲子園への道を開くことになる平島直吉氏(高3回・故人)だった。

昭和三十一年、平島氏が慶応大学を卒業して帰郷したのを機に、野球部の監督就任を要請。ユニフォームも一新し新たなチームが動き出した。しかし、野球部員はわずか二十名、ただ猛練習あるのみだった。だが、それからわずか二年で最強のチームを作り上げ、昭和三十三年七月二十八日八幡・大谷球場での県大会決勝戦を迎える。宿敵・小倉高を相手に逆転で5対3とし、ついに悲願の甲子園への切符を手



に入れた。
 ナインは翌日の昼過ぎに羽犬塚に凱旋。市役所のプラスバンドを先頭に車十台に分乗して市内をパレード、約二万人の市民が紙吹雪とテープで出迎えたのである。

今回、当時エースでキャプテンだった下川斌弘先輩(現在野球部OB会長・高11回)に甲子園への軌跡を聞いた。



優勝が決まった瞬間はどうでしたか?

優勝した時も、甲子園に出た時も、どちらかというと僕らより、周り(応援席)の方が凄かったですね(笑)。

当時はどんなチームだったんですか?

僕たちは野球を楽しんでいた。負けるとは思っていませんでした。みんなが勝つつもりで野球をやっていました。本当は僕らの前も年がとて強かったと思います。後の学年の方ももつと強かつたと思えます。いつか勝つだろうと思つて、一生懸命やっていた。僕らは甲子園に行くということよりも、勝ち始めてやつと野球の面白味、あるいは勝つ喜びが分かってきたんじゃないだろうか。二十名程の小さなチームだったようですか?

ほんとに二十名でした(高11回、12回、13回)。三年生は五人。この中に喜田君というメンバーがいて、二年の夏休みの練習中にセカンドをやっていた彼が、ライトと接触してしまい複雑骨折、プレーが出来なくなつてしまつた。その頃はベンチに十四人しか入れなかつたが、喜田君は甲子園ではちゃんとベンチに入った。監督、部長の心配だったのだから。ただ、これが僕らのチームの真髓だったのではないのでしょうか。試合に出られなくても皆の役に立ちたいという気持ちだったでしょうし、またその方の分はみんなでカバーしようという雰囲気があったんじゃないか。

なんで甲子園に行けたかというところ、そのあたりじゃないだろうか。それからみんな自主性がありましたね。午前中に休みの先生の授業があると、六時間目の先生にお願いして授業を前に持つて

きて、早く終わらせ練習をやつてました。そんなことを一年から三年まで自主的にやつていた。自分のやりたいこと、やるべきことは自分たちでちゃんとやつていたのではないでしょうか。

僕らの頃はお金がなくてボールが買えなかつたのでよく破れたボール縫いをやつた。休み時間や昼休みでも間に合はず、授業中もやつて注意された(笑)。ボールがないから、バックネットの支柱にトラックのタイヤをくり付けてそれを叩いてみんなパワーを付けていましたよ。

強かつたので周りからの期待も大きかつたのではないですか。

生徒のみんなも応援してくれました。毎年部長が集まつて(部費の)割り当てを決めていたが、僕らが三年の時には五割アツプにしてくれたと聞きました。有難いことに、柔道部の友達が音頭を取つてくれて、野球部が強いから少しみんな協力しようかと言つて、何万円か上積みされたという話がある。

スタンドの応援にも熱が入つていたようですね。

そのころは夏休みで、僕らが野球をやつている時、片方では大学に行くために一生懸命課外授業をやつていた。南部大会の時はお客さんは少なかつたが、県大会は大谷球場であり、当時の校長・吉田先生が応援に来てくださった。応援団も最初二百人、次五百人、決勝の時は千人超したんじゃないかな。その時、大学に入りたいから一生懸命授業をされてた先生がいらつしやつたらみんな怒られていた(笑)。大学に行く人が少ない時代だったからね。

また、最初僕らの学年は(野球部が)九人いたが、一年の夏ごろには大学に行くから勉強させてくれと辞めていく人がいた。でもそうやって辞めた人でも、一生懸命応援のリーダーをやつてくれたりした。今でも付き合いがある。それだけ仲がよかつたのかな。

甲子園のアルプスもいっぱいになった。五十年の歴史がある同窓会。その会員や家族でいっぱいになったんですよ。監督や選手の違いで印象に残つていことはありますかね?

甲子園出場が決まって、二日くらい休みがあつて、練習を始める時のこと。僕らが舞い上がつていたのかも知れないが、いつもは早く来て練習を始めるのに、その日はたると遅いのか、いつもより早く監督が来られると、まだユニフォームに着替えていないメンバーを見て「みんな並べ」と。「全部連帯責任」「一人悪かつたらみんな悪い」と言つて厳しく怒られた。怒られる時は一年から三年までみんな怒られた。そういう監督さんだった。

後で聞いた話だが、平島監督は「三年間のうちに必ず甲子園に行く」と周りに豪語しておられたらしく、甲子園に行くのが夢だったのかもしれない。

それから佐藤部長も忘れられません。野球が全く分らないのに部長をされていた。でも僕らが早めに練習に行くといつも一番早く来ているのが佐藤部長。ちゃんとユニフォームを着て、帽子をかぶつて。僕らがグラウンドに出て来るのを待つておられる。石ころ拾つたり草を取つたり。そういう先生だった。

こういう話もある。甲子園出場が決まつた時、「下川さん、僕甲子園行かせん」と言つてきたメンバーがいた。自費で行くと思つていたようで、「うちにはそんなお金ありません」と言つたので、僕は「心配するな、先輩諸氏もいらつしやるから、二十人全員で行くことになるから」と話した。その通り、多くの方から資金面でも応援して戴き全員で行くことが出来た。

もう一つ忘れられないのが、音楽の大坪先生。県大会になると相手高校にはブラスバンドで応援があるが八女高校にはブラスバンドがないので、かわいそうだ、と言われていた。甲子園出場を機に機運が高まり、二年後の夏、八女高にもブラスバンド部が出来た。

甲子園を通じて全国の同窓会も心一つになつたと伺いました。

僕らが一番嬉しかったのが、「おめでと」と言われたことより、同窓会の先輩諸氏より「ありがたう」と言われたこと。というのも、今まで東京とか大阪の方では「八女(やめ)」というのをご存じなかつた。それで「ありがたう。やつと八女の学校の名前、筑後市あるいは八女市、地域のことをPRしてくれて」と喜んでもらえたことです。

一回戦は不戦勝、二回戦から登場した八女高校は西宮球場(当時二回戦までは二球場に分かれて行われていた)で名門・松商学園と対戦。苦戦の末8対5と奇跡の逆転勝ちで、いよいよ甲子園球場で行われる三回戦に駒を進めた。三回戦の相手は当時超高校級ピッチャーと評判だった坂東英二率いる徳島商業。坂東の見事なピッチングの前にヒット四本に抑えられ3対1で惜しくも敗退。しかし、人数も少ない公立高校の活躍ということもあり、全国に爽やかな八女旋風を起して甲子園を去つたのである。



甲子園出場を決め凱旋。車十台に分乗して市内をパレードし約二万人の市民が出迎えた当時の様子

当初心配された出場費用の問題も、地元市町村を始め有志の熱意により容易に解決できた。八女パワを見せつけたのは資金面だけではない。羽犬塚駅からの出発の際、盛大な激励会で送り出されると、博多駅では同窓会福岡支部の数十人による「必勝」の大幟。また、三宮駅では阪神支部有志が「必勝八女」の幟で出迎え、更には激励会や練習グラウンドの確保、応援団の結成、鉢巻の作成と奔走した。そして、試合時の応援には東京支部からも駆けつけ、戦後帰省する際にも慰労・送別会まで行つてくれた。

甲子園での野球部の活躍は、故郷を離れた同窓生の心も一つにし、まさしく八女中高五十年の夢を、一挙に実現した一大痛快事だったのである。

参考資料：百周年記念誌「悲願達成 夢の甲子園」

「百周年記念事業 海外研修メンバー社会人に」

吉開 健(高62回)

二月某日八女高校百周年記念事業の一環として行われたアメリカ研修に参加したメンバーが約七年ぶりに集まり、旧交を温めました。

当時の久保校長先生をはじめとする研修に携わつてくださった先生方と我々研修生は、アメリカでの写真を眺めながら思い出話に花を咲かせ、改めて充実した研修だったと実感しました。

ニューヨークでは自由の女神像やタイムズスクエア、国連本部、メトロポリタン美術館やスミソニアン博物館などの主要な名所に加え、現地の高校を訪問し同世代の学生と交流もしました。

ワシントンDCではホワイトハウスや国会議事堂、リンカーン記念館、アーリントン墓地、ジョージタウン大学そして日本大使館を訪問し、六日間の研修を終えました。

個人的には九・一一テロで崩落した世界貿易センタービル跡地やエンパイアステートビルから一望したニューヨークの壮大な街並み、博物館や美術館など教科書で見えたことのないようなものを直に見ることができたことがとても印象に残っています。

当時の私は片田舎の高校二年生で見聞も浅く、どれほどのことを学べるのか漠然としており不安に感じることがありましたが、現地に行き様々なものに触れていく中でアメリカ力という国の大きさ、人種や文化の多様さなどを肌で感じる事ができたのと、当ても、またこれから先も自分にとって大きな経験になるだろうと改めて感じました。

アメリカに渡り外国の風に触れて学んだことを胸に私たちは、現在それぞれの夢に向かって進みだしたところで。

生物や植物などの基礎研究分野に進み大手食品メーカーに就職する者、大学院でエンジンなどの燃焼現象の研究に没頭する者、教職に就き小学校でクラスを受け持つ者、大病院で放射線技師や看護師として医療に携わり日夜白血病やガン患者と手を取り合つて闘っている者、家具メーカーに勤めつつ、家具のコーディネーターを目指す者、公務員や自衛官、全国の報道番組の制作をする者、その他有名企業や大手銀行に就職する者など進む道は様々です。社会に出たばかりですが、研修で得た経験や高校生活で学んだことを大切にし、八女高卒業生として恥じることをないよう、各々の分野で邁進して行く決意を固めています。

同窓会の皆さまへの感謝の気持ちを持ち続け、八女高校や社会に貢献できる人間になれるよう、成長し続けたいと思つていきます。

大同窓会に寄せて

前田 ちあき(高20回)

二〇一〇年、私たち高二十回生は人生の節目にと、還暦同期会を開催しました。それがきっかけとなつて毎年同期会を行っています。

昨年までに関東支部で二回(一回は東日本大震災のため中止)、関西支部で一回、それぞれの支部で企画して開催しました。関東、関西、福岡、筑後支部等から相互に向向き、旧交を温め親睦を深めることができました。また、それまで参加を見送つていた会員も参加し易くなり、開催都市で観光も楽しんだようです。

本年は福岡支部主催で五月二十四日(土)博多駅前のホテルクリオコートにて開催し、遠方からの参加者を含め四十六名、和気藹々と楽しいひと時を過ごしました。一人ひとりの自己紹介や近況報告もあり、高校を卒業した後のお互いの人生を思い、山あり谷あり、それぞれにここまで年を重ねてきたものだと感慨を深めました。

また、来年は東京での同期会を約束しました。二十回生の皆さん、多数のご参加お待ちしております。



最後に、私たちの先輩方が築いて来られた母校・八女中・八女高の伝統を継承し、新しい世界へ踏み出して行かれる後輩の皆さんのご活躍、ご健闘を心よりお祈りいたします。

我が母校

同窓会会長 下川 泰(高2回)



会員のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。この新聞が発刊される頃は、新入生を迎え、学校では活気にみちあふれている頃と

います。去る三月一日に、六十七回生の卒業式が行われ、二百七十六名が晴れて卒業され、同窓会に入会されました。同窓生も二七、九九九名を数える規模となりました。これも創立明治四十一年以来百七十年にわたる歴史と伝統のたまものと思います。四月七日に第七十回生が入学式を迎えられました。ただ少子化の影響もあり、六クラスです。一学年八クラスあった当時から思えば、近年クラス減が始まり、現在は六クラスになっており、少子化の速度の速さに驚かされます。周囲の公立高校は五クラスになっていますから、まだよい方です。このまま六クラスを堅持出来ればと願っています。

御挨拶

八女高校校長 内田 武文



同窓会会員の皆様方におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また、日ごろから、本校教育振興のために、格別の御理解と御協力を賜わっております。心から感謝申し上げます。

特に、校長として着任してからのこの一年を振り返りますと、毎年九名の生徒への奨学金給付事業や、関東同窓会の力をお借りして実施している二年生の東京研修など、同窓会の皆様の母校愛や後輩たちに対する熱い期待と御支援の有り難さを日々実感して参りました。さらに来月実施する大運動会をはじめ各活動における皆様の激励・指導などに対して、生徒、職員を代表して重ねて感謝申し上げます。そのような中、生徒たちは、校訓「質実剛健」のもと、文武両道の精神を確実に引き継ぎ、日々、充実した学校生活を送っています。去る三月一日には、下川泰同窓会会長、副会長の蔵内勇夫御臨席を賜り、厳かにも心温まる第六十七回卒業証書授与式を挙行でき、二百七十六名の卒業生が飛び立っていきました。その六十七回生の中に、「八女高校、三年間お世話になりました。ありが

また、近年、公立高校の中高一貫校への動きが活発化していますが、我が母校の将来を思えば、この問題も一考に値するのではないかと思っています。

同窓会本部では、まず、学校との連携を計るべく、各種学校行事に参加し、また、先生方保護者会、その他教育会の人とも話し合う場所を持つたりして情報の共有等に努めています。支部については久留米支部が再開され、殆どの支部については久留米支部が再開され、部総会の参加者も年々増し、盛況をおさめています。特に関東支部では生徒有志の東京研修に多大の支援を頂き感謝に堪えません。さて、本年度大同窓会は、五月三十一日(日)に開催されます。担当はご承知の通り三十八回生で、吉田世津子氏を中心に大いに頑張っておられます。皆さん方の期待に十分応えて頂くと思えます。奮って参加ください。同窓会ケツト売上金の中の一部(百八万円)を同窓会からの生徒の奨学金にあてて頂くことになっています。この事業は、もう十一回も続いていきます。誠に有り難いことです。最後になりますが、会員各位のご健康と、今後ますますのご活躍をお祈りします。

とうございました。一と校門に一礼して、学校を去っていく生徒たちをみかけて、私は、あらためて本校生徒の素晴らしさに目頭が熱くなった次第です。新たに同窓会に入会させていただいた六十七回生は、学習や部活に懸命に励み、昨年度をさらに上回る国立公立合格、私立大学合格を果たし、公務員にも十六名が合格するなど、多くの生徒たちが希望進路を実現しました。また、部活動においても弁論部、卓球部、自然科学部が出場した全国大会、水泳部が出場した九州大会など、各種大会で生徒たちは大いに活躍してくれたことを御報告いたします。そして、学校では、四月七日には第七十回入学式を行い、二百四十名の新入生を新たに迎え、新年度をスタートしたところであります。今、校内では、生徒たちの元気や明るい挨拶が飛び交い、この挨拶が素晴らしいと、お客様方や、地域の方々からもお褒めの言葉をたくさんいただいております。是非とも、皆様にも母校へ御来校いただき、そのような姿をご覧いただければ幸いです。私たち職員一同、これからもグローバル化や少子高齢化等により社会が大きく変化の中において、目の前の生徒たちが、充実した高校生活を送るとともに、志を高く掲げて、進路目標を達成出来るように指導して参る所存です。結び、同窓会の御発展と、会員の皆様の、今後の御活躍、御健勝を祈念しますとともに、さらなる母校への温かい御支援をお願い申し上げます。御挨拶いたします。

支部だより

関東支部

東京は大いに盛り上がっています

関東支部長 福本 博(高12回)

昨年の支部総会は例年まで学生会館でしたが段々手狭になり、東京プリンスホテル内「ガーデンアイランド」に会場を移し六月七日(土)に開催。来賓として本部から下川泰同窓会会長及び母校から渡辺博史参事兼事務局長をお迎えし、中三十五回生の先輩から現役大学生七名迄の幅広い年代層、総勢二百八十名(過去最大規模)の出席者で、大盛況裏に終了致しました。総会では、太刀山美樹氏(高37回)による「福岡からアジアへ、芯のつよい子を育てます」来た玉はうつつの記念講演に続き、懇親会の部では、関東支部第八十五回目的に際して、大先輩である田中親房様(中36回)重富吉之助様(高4回)による「大先輩を語る」のトークショーや、俳優・歌手・ケータ奏者である田中健氏(高21回)、本名 田中研一)の、飛び入りのパフォーマンスショー等で、大いに盛り上がりました。

最後は全員による校歌合唱、運営役員で結成した「同窓会応援団」から八女高校へエールを送り、万歳三唱で締め、来年の再会を約束しお開きとなりました。その他の行事として

- ①母校の発展を期待しての支援活動。昨年の「東京研修」は三十五名が八月五、七日に、東大・ANA・出光興産を訪問し、夜は宿舎でOBとの懇談会を行い成果を上げました。
- ②会員相互の親睦「東ゆうかりゴルフコンペ」春は取手桜ヶ丘GC、秋は習志野CCの年二回の定例会は継続中、いつでも参加歓迎、幹事の眞邊氏(高19回)へご連絡下さい。
- ③広報活動 会員内ネットによる情報交換の場を開設中です。随時更新していきます。



追伸 この原稿を書き始めた時、朝日新聞の欄に見慣れた人の写真と記事が掲載され驚きました。 「服部征夫氏(七十二歳)台東区長に大差をつけて当選！」のニュース。アレー！彼は高十三回生(親は元八女市長寅雄氏)。地盤もない台東区の議員を五期、そして都議も五期活躍し、そろそろリタイア？と思っていたが、なんと台東区十九万人の長(市長と同等の権限を持つ)として采配を司る事になるとは。その時、彼と同期の学年幹事から電話あり「今、同期に電話を掛けまくるところです、この喜びを伝えたくて！」との報告。この年になって又この巨大な関東の地推さかされて再出発するし、人の為が身の為の仲間達が縦横に連携を保ち、分かち合い盛り上げていくくれるとは。 「これぞ八女高同窓の絆だ！」とすぐに広報担当の吉武町子さん(高24回)へ「支部だより」の発信依頼をし、その日のうちに喜びを共有。これはほんの一部の情報がネットが。支部では常時、全学年幹事の窓口ネットを通じて会員同士の交流情報を発信し続けています。

この新聞が出されたすぐ後、六月十三日土曜日十一時開会の関東支部総会は東京プリンスホテルの「ガーデンアイランド」で今回も盛り上げます。上京中であれば、参加お待ちしております。

大牟田支部

三池炭坑を世界遺産に！
大牟田支部長 下川 斌弘(高11回)

大牟田支部は毎年四月の第三金曜日恒例となつています支部総会の日ですが、百名足らずの会員が、他の支部の応援を受け、高齢の会員が老骨に鞭打って存続のため頑張っています。

若い会員の参加を希望しますが、発展の先が見えない大牟田市の街(毎年人口が千人単位で減少している)のため、市としても企業誘致などして人口減少対策に力を入れていますが、いまいちです。

総会の後、懇親会でお酒を酌み交わし和や

八女支部

八女茶を学び

八女支部長 大塚 泰三(高16回)

支部総会は恒例により十一月第二日曜日(二十六年は九月)にメモリアルホール「いわ井」において九十数名の御参加のもと、下川会長、内田校長先生をはじめ御来賓をお迎えして開催いたしました。

今回の講師は、高三十回生で八女市農業振興課長の松延久良氏にお願い致しました。演題は「八女茶今昔物語」でした。八女茶は、今から約六百年前に茶師周端禪師が、八女市黒木町笠原に靈巖寺を建立し、明国から持ち帰った茶の種をまき、製法を伝授したのが始まりとの事で、八女茶の現状について、そしてお茶の効能、また美味しいお茶の入れ方等、お話をいただきました。お茶は禅宗といつしよに薬として持ち込まれたとのこと。お茶を飲み、またお茶を食べることは大変健康に良いとのこと。詳しくは八女市に来ていただきパンフレット等をご確認され、健康の為に是非お茶を飲まれますことをお勧めいたします。尚、お茶は土壌、地形、気候等がその香り、味を作ること、八女茶の良さは他ではできないそうです。玉露は平成十三年より連続で日本一の農林水産大臣賞を獲得中とのことです。

また、懇親会は、例年通り盛会となりました。その中で、八女支部ゴルフコンペの要望がありました。現在、在会員有志の方でコンペのあり方を検討中、平成二十七年中では第一回目を開催したいと思っております。同窓生の多数の御参加を期待しております。



筑後支部

ときわの森の支部総会

筑後支部長 久保 大高(19回)

筑後支部では、平成二十六年支部総会を恒例にならして十月末の土曜日(二十五日)に高三十二回生の皆さんのお世話で八女高校同窓会館会議室にて開催いたしました。

総会では、総勢百四十人を超える会員の皆様にご出席いただき、来賓として下川泰同窓会長・内田武文校長および秋原孝副会長をはじめ本部役員や各支部長など多くの方々にご臨席を賜り、盛大に開催することができました。

福岡支部

福岡支部長 加藤 久(高25回)

内田校長からは「生徒たちのために有効に活用させていただきます」とのお礼の言葉をいただきました。その後、高三十七回生であります田村貴子筑後支部市長から「女性が活躍する社会に向けて」と題し記念講演があり、冒頭、自己紹介で高校時代の思い出を語り、また、地域における防災活動・高齢者支援・子育て支援などには、女性の視点から不可欠であるとか、誰でも安心して心豊かな暮らしを地域にするため、女性の参画が必要であるなど熱く語っていただきました。会場を同窓会館一階の食堂に移し、八女中・八女女の校歌を斉唱し懇親会が始まりました。和やかな雰囲気の中で、昔の友との久々の再会が話の尽きなく、閉会の機会がなかなか作れないほどの盛況でした。平成二十七年支部総会・懇親会は、高三十三回生の皆さんのお世話で十月三十一日土曜日に八女高校同窓会館で開催を予定しております。皆様お誘いの上、一人でも多くの方々に出席していただきますようお願いいたします。

平成二十六年度、八女中学・八女高校同窓会福岡支部総会は、平成二十六年十月十日、高校三十三回生の川島さんが社長を務める博多駅近くの「八仙閣本店」において、下川泰同窓会長、内田校長、中村筑後支部長、田村副会長をはじめ多く来賓の方々にご参加いただき、百名を超える参加者で盛大に開催されました。記念講演として、特長ある農業を展開しておられる富吉製袋右衛門様より『魅力ある将来の農業について』と題して迫力のあるお話をいただきました。



また、懇親会では大同窓会の当番幹事であります高三十八回生による四十年代後半とは思えないユーモアと若さあふれるパフォーマンスをご披露いただきました。この支部でもそうでしたよ、同窓会で一番苦労するのが集客であります。全く無関心の人、一度は来たけれどおもしろくならなかったのて来なくなった人、同窓会の存在すら知らない人様々であります。昨年の福岡支部同窓会では、福岡県庁にお勤めの同窓生を中心として集客に大いに協力を頂きました。本年はそのネットワークをさらに、縦横のつながりへと広げたいと考えております。簡単なことではありませんが、同窓会に参加する人が一人でも増えれば、自然と参加者は増えてくるものと確信しております。

久留米支部

久留米支部長 近藤 信夫(高12回)

そのためには、同窓会総会、懇親会を、みんなの力で、もつと楽しく、もつと有意義なものにしなければなりません。福岡支部が、八女中学、八女高校をご縁に、新旧様々な方との出会いのチャンスを与える場になりたいと思っております。今後、支部運営をして参りたいと思っております。なお、本年度の支部総会は十月下旬、昨年と同じ「八仙閣本店」にて開催予定です。多くの方のご参加をお願い致します。

久留米支部総会を終えて
昨年十一月久留米支部総会をハynesホテルで開催することができました。好天に恵まれ地の利もあつたせいか、長いブランクの後としては五十名を越す参加者がありました。会長は本校同窓会長下川様を始め八女高等学校事務長渡辺様からの祝辞をいただき、私も皆様に感謝の言葉を述べさせていただきました。私共支部では二十七年支部総会のお世話をいたしたく、高三十八回生により「軌跡」そして未来へ2015のメッセージが入ったポスターを持参の下、花を添えてくれました。若い後輩のPR活動により大同窓会の参加を決めたOBも多く、新たな親睦を深め絆もより強まっております。先輩・後輩と時代背景の違いもあり、話題はつきませんでした。昭和二十八年八月八日八女中二年生だった元村先輩は、夏休み中勤労奉仕として農家の手伝いにいくのが日課だったと語ります。朝いつとも同じ荒木駅より乗り込み登校中、空襲警報が出たので西牟田駅で下車。上り列車に乗り換えて荒木駅に向かった時の惨劇を生々しく語ってくれました。列車は満員でデッキまで乗客が溢れており、荒木駅に近づくと列車は爆音と同時に機関車三、四機により機銃掃射を受け、列車の下に逃げ込み一命が助かったという事です。戦闘機がさつた後も兵士の命令で何と遺体の収容まで手伝う事になり、道路脇や線路脇へ引きずり捨て、鎌をかける作業に従事したとの事です。空襲警報がでると農作業が免除となり遊び盛りの中学生として嬉しかったと語る先輩の話も聞きながら、こうして皆で美味しい酒をいただいた平和の有り難さをかみしめ、同窓会を終えることが出来ました。

私も支部長としてより一層貢献できたと思つた次第です。参加者にとって今回の支部総会は、青春時代に思いを馳せる一日となつた事と思ひます。

関西支部

関西支部長 大崎 繁満(高17回)

関西支部では平成二十一年度より毎年利用してきた総会会場「大阪弥生会館」が今年の九月末で閉館することになりました。同会場はJR大阪駅や阪急梅田駅から徒歩五分と云う利便性に優れた事もあつて、過去六回の総会のみならず毎回の幹事会会場としても常時利用して、すっかり関西支部のホームグラウンドとして定着していただけて非常に残念に思っています。平成二十七年支部総会は十一月二十一日(土曜日)に新会場で盛大に、先輩、同級生、後輩諸氏の親睦を大いに深める予定にします。新会場の選定予約については先輩諸氏の助言も頂き、利便性やコストパフォーマンス等も考慮して進めていく予定です。開催期日、総会会場が決まりました段階で、同窓会のHP等を通じて、改めて案内いたしますので八女中・八女高同窓諸氏の多数のご参加をお待ちしております。

さて、昨年の総会は九月二十八日に「大阪弥生会館」で五十三名の参加者で開催され、角武徳前支部長並びに各幹事及び担当幹事役の高橋氏を始めとする高十八回生の皆様方のご尽力により無事、盛大に開催できました。前半は総会の後に、吉岡先生(高8回)講演で、演題「痴呆予防について」に関して講演されました。内容は多くの参加会員にとって身近な問題なだけに非常に好評で、盛り上がった状況でした。内容を実践して、何時までも元気で毎回の総会に出席したいですね。

懇親会では例年通り、来賓の下川同窓会長と新任の内田校長の両氏から現況報告を賜つた後、世代間を越えた談話に大いに花を咲かせました。途中カラオケやじゃんけん大会などの各種イベントも盛り上がり、更に本年度同窓会総会の担当幹事の吉田さんを始め高十八回生の皆様方の献身的な協力もあり、会場一杯に若いエネルギーが溢れた楽しい総会になりました。

最後は高橋幹事の音頭で校歌斉唱後、高橋氏より文武両道教育の再現を祈願して、高校球児メツカを陣甲子園球場の「砂」を運呈いたしました。その甲斐あつたか、県大会ベスト8に輝いたと聞き、関西支部として嬉しみの限りです。最後に「大阪弥生会館」での記念写真を載せておきます。



軌跡～そして未来～2015

御礼 大同窓会に感謝 ありがとうございます

平成二十七年大同窓会実行委員会
実行委員長 吉田 世津子(高38回)

本年度の大同窓会懇親会「軌跡」そして「未来へ」のお世話をさせて頂いたくにあたり、御指導、御支援を頂きました先生方、先輩方、後輩の皆様から御礼申し上げます。

八女中・八女高同窓会の下川会長様、副会長様、役員の皆様、そして筑後、八女、みやま、広川、立花、大木、久留米、大牟田、福岡、関東、関西の各支部の支部長様、および同窓生の皆様、私たちを快く温かく迎えて頂きありがとうございました。

内田校長先生をはじめとする学校関係者の皆様、部活動や体育祭前のお忙しい中、ご協力頂きありがとうございます。美しい音色を奏でる吹奏楽部のハーモニ、笑顔で美しい息を吐いたりの華麗なダンス部、力強く若いパワーみなぎる応援団、など、在校生の清々しい姿は、明日への希望です。

東野先輩、野崎先輩をはじめとする三十六・三十七回生先輩方、何も分からない私達に優しく親身にアドバース頂きありがとうございます。

一生に一度の当番幹事としての大役を務めさせて頂いたことに、心より感謝申し上げます。「人と人」、「心と心」の繋がる同窓の大切さを学ぶことができました。改めて、愛する母校「栄光の百七年の軌跡」八女高校が大好きです。同窓生が誇ります。ここで得たものは、大切な宝物、一生の財産になると思います。大好きな仲間たちと一致団結して活動してきました。三十八回生幸せをかみしめています。三十八回生同級生の厚き友情に心から感謝です！そして、次年度の野田実行委員長、芳司事務局長をはじめとする三十九回生の皆様、この伝統をしっかりと引き継いで頂きありがとうございます。

今後ますます八女高校が発展することを願い、同窓生の皆様が毎年笑顔で集えることを心からお祈りしております。本当にありがとうございます。

「大同窓会への思い」

平成二十七年大同窓会実行委員会
副実行委員長(企画担当) 井上 正通(高38回)

平成二十七年の大同窓会を迎えるにあたり、約二年前から準備に取りかかりましたが、実はその時から一度も大同窓会に出席したことがなく、一つ一つ先輩や同級生に教えていただきながらの作業でした。

まず重要な大同窓会のテーマを決めるにあたり、企画委員会だけで決めるのではなく三十八回生みんなの大同窓会への思いをアンケートで出してもらい、それをもとに企画委員会で検討を重ねて「軌跡」そして「未来へ」に決定しました。先輩方が積み重ねてこられた歴史、そして大同窓会を経て明日に向かっただけでなく、という思いを込めました。ポスターやチケットのデザインも三十八回生の仲間がゼロから作成してくれました。ノベルティの検討やアトラクションの決定、準備等々かなりの時間と労力を使っ

て作業してきましたが、今思い返せばあつという間に大同窓会の本前話が終わりを迎えていた感じが、数年前に感じていた大同窓会への思いが今は全く違うものになっています。

支部総会や各会合に出席させて頂いた先輩同窓生の皆様にいろいろとアドバイスをいただきました。以前から存じ上げていた大先輩が八女中・八女高の大先輩であったということが初めて分かったことや、いかに八女中・八女高卒の先輩方が各方面各地域で活躍されているかがよくわかりました。八女高を卒業して本

当によかったと改めて実感しました。三十八回同窓生と準備できたこの二年間は改めて大切な二年間だったと感じています。この八女中・八女高の伝統が軌跡となつて、未来永劫続いていくことを私も微力ながら携わっていきたいと思います。

大同窓会を行ううえで、いろいろとご協力頂いた先輩同窓生の皆様、学校関係者の皆様、在校生の皆さん、そして三十八回生の皆さん、本当に感謝致しております。ありがとうございます。

第三十九回泉ヶ丘ゴルフコンペ

平成二十七年大同窓会実行委員会
副実行委員長(事業担当) 酒井 徳弥(高38回)

昨年、『泉ヶ丘ゴルフコンペ』のお世話をさせて頂く事が決まり、本当に短く感じ一年でした。今回のゴルフコンペは、葛城淳次会長が勇退される事もあり、ゴルフコンペ・表彰式に多くの人が参加して頂く事を目標に、三十八回生みんなが努力してまいりました。

当日は、参加人数の都合上、早朝六時からブレリーして頂き、表彰式は、夜七時から「八女高の食堂」での開催という長い一日となりましたが、コンペには二百五十名・表彰式には八十名が参加して頂き、盛況に終えられた事を嬉しく思います。参加して頂いた方に対し本当に感謝申し上げます。私自身、ここ数年前から「泉ヶ丘ゴルフコンペ」八女中・八女高大同窓会」に参加させて頂き、当番回生の先輩方のお世話をさせていただきました。皆さんの先方からこの日の為に一年間準備され、遠方からも駆け付けてお世話されていた事が、強烈な印象として残っています。先輩方の母校に

対する愛情を見て本当に感動しました。この事は、脈々と繋がられてきた八女高の伝統であり、今後も継承していく事と考えます。また、このお世話で数十年ぶりに会う同級生、高校時代に話をしたこともなかった同級生に再会できた事は本当に素晴らしい事でした。会合を重ねるたびに高校時代の思い出が懐かしくよみがえり、会合後の食事会では、酒を酌み交わしながら様々な話をして相手の考え方や新しい一面に驚き、自分自身を考えさせられ、本当に楽しく有意義な時間でした。この経験は、今後自身の財産になると

思います。

最後に、『泉ヶ丘ゴルフコンペ』の担当を与えて頂き、また運営に協力してくれた三十八回生の皆さん、様々な準備段階でアドバイスを頂いた先輩方に対して感謝申し上げます。ありがとうございます。

最後に、『泉ヶ丘ゴルフコンペ』の担当を与えて頂き、また運営に協力してくれた三十八回生の皆さん、様々な準備段階でアドバイスを頂いた先輩方に対して感謝申し上げます。ありがとうございます。



感謝の思い

平成二十六年大同窓会実行委員会
実行委員長 野崎 啓二(高37回)

昨年の大同窓会では、同窓生の皆様には大変お世話になりました。お願いをするばかりで、なかなかお礼を申し上げる機会もなく、一年が過ぎてしまい、あらためてこの紙面をおかりして心から御礼を申し上げます。

思い起こせば、三年前の大同窓会の際、第一回目の実行委員会を開き、まったく手探りの状態からのスタートでした。その前の学年同窓会の折、酒の勢いで代表幹事を引き受けていた私は、初めてその重責を実感し大きなプレッシャーを感じていました。皆さんの先輩方へのアドバースをいただき、そして何より高校時代にこんなにもまとまった事があるだろうか...と思うくらい三十七回同級生の団結力をもつて、幹事という大役を務めることが出来ました。八女高校を卒業して三十年、それぞれの環境や立場、境遇が違う中で、それぞれが自分の役割を果たし、何ものにもかえがたい達成感を味わうことができました。

大同窓会へのかかり方、考え方は人それぞれだと思います。そして、やはり前世話からの二年間はかなりの重労働です。ですが三十年ぶりに再会した同級生と一丸となつて事を成し遂げるといふ経験で得たものは、今後の人生において大きなものになると思います。私にとつてもたくさん先輩、後輩との出逢い、そして同級生との再会で得たものは、大事な財産です。後輩の皆様、同級生と存分に楽しみながら、この伝統ある母校、八女高校大同窓会を繋いでいってください。私たち三十七回生も今後微力ながら応援させていただきます。大同窓会は楽しいものです。「不亦楽乎。」です。

大同窓会へのかかり方、考え方は人それぞれだと思います。そして、やはり前世話からの二年間はかなりの重労働です。ですが三十年ぶりに再会した同級生と一丸となつて事を成し遂げるといふ経験で得たものは、今後の人生において大きなものになると思います。私にとつてもたくさん先輩、後輩との出逢い、そして同級生との再会で得たものは、大事な財産です。後輩の皆様、同級生と存分に楽しみながら、この伝統ある母校、八女高校大同窓会を繋いでいってください。私たち三十七回生も今後微力ながら応援させていただきます。大同窓会は楽しいものです。「不亦楽乎。」です。

大同窓会へのかかり方、考え方は人それぞれだと思います。そして、やはり前世話からの二年間はかなりの重労働です。ですが三十年ぶりに再会した同級生と一丸となつて事を成し遂げるといふ経験で得たものは、今後の人生において大きなものになると思います。私にとつてもたくさん先輩、後輩との出逢い、そして同級生との再会で得たものは、大事な財産です。後輩の皆様、同級生と存分に楽しみながら、この伝統ある母校、八女高校大同窓会を繋いでいってください。私たち三十七回生も今後微力ながら応援させていただきます。大同窓会は楽しいものです。「不亦楽乎。」です。

大同窓会へのかかり方、考え方は人それぞれだと思います。そして、やはり前世話からの二年間はかなりの重労働です。ですが三十年ぶりに再会した同級生と一丸となつて事を成し遂げるといふ経験で得たものは、今後の人生において大きなものになると思います。私にとつてもたくさん先輩、後輩との出逢い、そして同級生との再会で得たものは、大事な財産です。後輩の皆様、同級生と存分に楽しみながら、この伝統ある母校、八女高校大同窓会を繋いでいってください。私たち三十七回生も今後微力ながら応援させていただきます。大同窓会は楽しいものです。「不亦楽乎。」です。



2016年のテーマは「出会いに、感謝。」



出会いに、感謝。

2016年
八女中
八女高
大同窓会

かわっても、
かわらないもの。

2016年5月29日(日)
【総会】午前10:00～ 【懇親会】午前11:00～
会場 八女高等学校体育館

●チケット好評発売(お一人様15,000円(当日販売もごさいませ)
●お問い合わせ先/八女中・八女高大同窓会実行委員会

出会いに、感謝。

平成二十八年年度大同窓会実行委員会
実行委員長 野田 雄一郎(高39回)

ついに始まった前世話を受けて昨年の夏、私たちは二十歳の頃以来、約二十五年ぶりとなる学年同窓会を行いました。久しぶりに再会した友達は、容姿もだいぶ変わっており(自分もですが)、名前を聞いてもしばらくピンとこない人も少なくありませんでした。けれど20分ほど話しているうちに、どんどん昔の様子がフラッシュバックしてきて、不思議な感覚にとらわれました。授業中に交わしたわいもない会話、食堂まで一緒に走った休み時間、意外な友人のクラスマッチでの活躍などなど、まるで高校時代に戻ったように鮮明に思い出します。

高校時代に感じていたことが、今も変わっていない! そんな気さえしました。その時、思いました。普段は意識しなかつたけれど、八女高での三年間はいつの間にか自分自身の核になっている! まもなく卒業して三十年になろうかとしています。卒業後の長い時間からすれば、高校時代の三年はあっという間だったはず! でも、かけがえのない三年間でした! 八女高での様々な出会いは決して偶然ではなかったのだと思います。その素晴らしい出会いに感謝しつつ、みんなと力を合わせて前世話を全うしていきたく思います。そんな思いを込めて、来年のテーマは「出会いに、感謝」としました。また母校の体育館で皆様の笑顔と再会できます事を楽しみに、精一杯心を尽くしたいと思えます。来年もどうぞよろしくお願ひします。

大同窓会に、感謝。

平成二十八年年度大同窓会実行委員会
副実行委員長 寺松 紀彦(高39回)

私は、八女中・八女高大同窓会へ、初めて参加させて頂いたときの衝撃と感動は今でも鮮明に覚えています。それは、大同窓会への出席者の多さと言葉に表せない熱気です。そして、八女中・八女高の大先輩方を、最大の尊敬と感謝でもてなす大同窓会に、改めて「八女高スプリッツ」を強く感じて、私は、この伝統ある八女高校の卒業生だったことを誇りに思いました。平成二十八年年度の八女中・八女高大同窓会懇親会のお世話を、私たち高校三十九回卒業生が、全力で務めさせて頂きました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。現在、私たち高校三十九回卒業生は、底抜けに明るく頼もしい吉田実行委員長をはじめとする高校三十八回卒業生のご指導の下で、大先輩方が受け継いでこられた伝統を感じながら、肅々と一歩一歩と大同窓会に向け準備しています。

今回、八女中・八女高同窓会新聞第十号に記事として掲載させて頂きました下川城弘大先輩には、ご多忙の中、快く取材をお引き受け頂き本当に有難うございました。心から感謝いたします。甲子園初出場の際の、日々の高校生活と部活の様子並びに応援風景をいきいきと鮮明に語って頂いた時間は、貴重なひとときでした。

甲子園出場は、「八女」を全国区に届けた功績だけでなく、応援を通じて、全国の八女中・八女高の同窓生の心を一につにしたことだろうと思えます。最後に、全国の同窓生の心を一につにできる日が近いことを私は心から願っています。

世話役を務めて

平成二十六年年度大同窓会実行委員会
事務局長 田中 孝之(高37回)

準備から去年の大同窓会の本世話まで、足かけ四年。この間に延べ百五十名ほどの三十七回同窓生が地元をはじめ、福岡や関東支部など、至るところでお世話役を通して交流・親睦を深めることができた。貴重かつ有意義な経験をさせて頂きました。お世話になった先輩のみなさまには、まずはお礼を申し上げます。この機会がなければ、人生の中での楽しみを、ひとつ失っていたかもしれせん。大変な事もありましたが、そんな苦労話も「また楽しからずや」と、今は良い思い出です。

そんな苦労話の中で、一番大変だったのは、やはり大同窓会当日の動員でした。我々三十七回生は、昭和四十一年生まれの丙午世代。前後する学年の中では、生徒数が三百四十名ほどと一番少なく、また、ずいぶん長い間、学年同窓会を開催しておらず、三十七回生お互い同士が疎遠気味でした。

前世話の二年前の大同窓会に参加していたのは、たつた二人だけ(他の学年だと三十、四十名ほど参加している時)と、(他の学年だと五十名ほど参加している時)と、集まりが悪く、百名以上の動員が必要といわれる本番のお世話役が行き届くか、事務局スタッフ一同、ものすごく心配していました。友人・兄弟に頼んで手伝いに来てもらおうかと、アルパイトを雇おうかと、喧々譁々焦りまくりました。

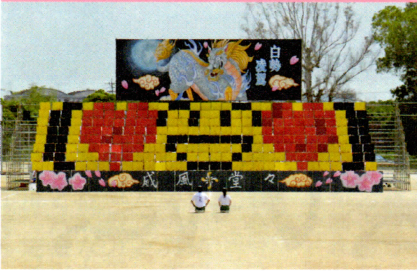
それでも前世話・本世話時の当日は、百十名ほどは集まってくれ、至らない点もあつたかも知れませんが、無事にお世話役を務めることができました。さて、今年の三十八回生からは、三十七回生より五十名ほど生徒数が多い世代がしばらく続きますね。人数が多いからといって、動員の苦労は同じでしょう。大変な事もありますが、毎年のだ同窓会懇親会を盛会に引き継いでいたのだから、すよう、お願ひします。終わってみれば「また楽しからずや」です。頑張ってください。

2016年 八女中・八女高大同窓会
5月29日(日) 総会 10:00～ 懇親会 11:00～ 八女高校体育館
高校39回生一同、お待ちしております!!
2016年4月29日(祝) 第40回泉ヶ丘ゴルフコンペ

八女高校大運動会

平成27年6月6日(土)

テーマ
「驀進」～刹那にかける三龍魂～



平成27年度入試等合格者

国公立大学113名!

医学科 2名(熊本大・佐賀大)
薬学科 1名(熊本大)
私大医学科 3名 合格!

☆国立大学…九州大学 11名合格!(医学部・医学科含む)

☆私立大学…早稲田大学 2名

明治2名、立教1名、
中央3名、駒澤2名

関関同立25名合格!
(関大、関学大、同志社、立命館)

☆防衛大学校…今年も筑後地区最多 23名合格!

平成26年4月～平成27年4月 部活動報告

全国大会出場

- ◎弁論部
第38回全国高等学校総合文化祭弁論部門
第60回文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会
平成26年7月29日～30日(於 茨城県)
溝上 賢史郎(東山中出身)
- ◎弁論部
福澤諭吉記念第53回全国高等学校弁論大会優秀賞(5位)
NHK大分放送局長賞
溝上 賢史郎(東山中出身)
- ◎卓球部
第42回全国高等学校選抜卓球大会 個人の部 平成27年3月26日～
岡山 結季乃(瀬高中出身)(於 香川県)
- ◎第11回日本の次世代リーダー塾福岡県代表
牛嶋 友啓(立花中出身)
- ◎空手道部
第58回全国空手道選手権大会 個人戦高校男子形の部
平成27年6月27～28日(於 東京都)
溝上 天斗(立花中出身)

九州大会出場

- ◎水泳部
全九州高等学校水泳競技大会 平成26年7月19日～21日(於 佐賀県)
吉岡 莉帆(筑後中出身)
400m個人メドレー 7位(県大会)
200m個人メドレー 8位(県大会)
- ◎水泳部
全九州高等学校選手権新人水泳競技大会(於 熊本県)
50m背泳ぎ・400m自由形 下川 隼一(筑後中出身)
50m背泳ぎ・100m背泳ぎ 檀 亜香里(筑後中出身)
50mバタフライ・100m自由形 吉岡 莉帆(筑後中出身)
50m背泳ぎ・100m背泳ぎ 島崎 夏海(福島中出身)
200m背泳ぎ 吉瀬 綾乃(筑後北中出身)
200mメドレーリレー) 吉岡・檀・吉瀬・島崎
200mリレー

県大会出場

- 剣道部、弓道部、男女バスケットボール部、ソフトテニス部、陸上競技部
柔道部、水泳部、卓球部、空手道部、放送部、書道部、自然科学部生物班
陸上競技部 角竜太郎、池田理紘、佐藤公彦、角優花、野口真里、森綾香
吉武美友、松本晴樹、松藤雅俊、野上龍也、尋木奏百、富安遼一
中村亮太、森田祐実、松井美鈴
弓道部 山口志保、田川明里、西川響、牛嶋友啓、川野雄貴、古賀陽
剣道部 中村沙耶、堤萌絵、原口瑠里
卓球部 西田和樹、高山晴暉、岡山結季乃
ソフトテニス部 中島聡太、大塚巧 柔道部 佐々木玉緒
放送部 福田成美、伊藤菜月、藤川萌菜

平成27年度入試等合格者一覧

国公立大学	中部大学	九州情報大学
茨城大学 1	摂南大学 2	西九州大学 10
横浜国立大学 1	愛知医科大学 1	保健医療経営大学 1
広島大学 1	同志社大学 12	長崎外国語大学 1
山口大学 4	立命館大学 10	長崎総合科学大学 1
九州大学 11	名城大学 2	活水女子大学 1
九州工業大学 2	関西大学 1	熊本学園大学 1
福岡教育大学 5	関西学院大学 2	崇城大学 14
佐賀大学 27	京都産業大学 1	長崎国際大学 1
長崎大学 4	近畿大学 4	熊本保健科学大学 4
熊本大学 15	京都産業大学 1	九州保健福祉大学 3
大分大学 2	龍谷大学 1	九州看護福祉大学 10
宮崎大学 1	関西外国語大学 6	短期大学
鹿児島大学 5	兵庫医科大学 1	中村学園大学短期大学部 1
京都府立大学 1	大谷大学 1	香蘭女子短期大学 2
北九州市立大学 6	岡山理科大学 3	他3校 6
九州歯科大学 1	山口東京理科 1	専門学校
福岡県立大学 1	宇部大学 3	(独行)九州医療センター 2
福岡女子大学 1	西南学院大学 35	付属福岡看護学校 他14校 22
名桜大学 1	福岡大学 130	公務員
准大学	中村学園大学 20	税務職 1
防衛大学校 23	久留米大学 43	筑後市職 2
私立大学	筑紫女学園大学 19	八女市職 2
早稲田大学 2	九州産業大学 29	福岡市職 1
明治大学 2	福岡女学院大学 9	広川町職 2
立教大学 1	福岡女学院看護大学 4	福岡県警 3
中央大学 3	国際医療福祉大学 13	海上保安学校 1
駒澤大学 2	福岡工業大学 18	東京消防庁 1
明治学院大学 1	西南学院大学 4	自衛隊一般曹候補生 1
東京理科大学 4	久留米工業大学 6	自衛隊自衛官候補生 2
芝浦工業大 4	帝京大学 2	八女市社会福祉協議会 1
東京農業大学 3	九州女子大学 2	就職
創価大学 1	純真学園大学 3	就職 2
桜美林大学 1	聖マリア学院大学 4	
愛知学院大学 1	第一薬科大学 2	

大健闘!!

野球部
第136回九州地区高等学校野球
福岡大会 ベスト8
第28回NHK旗
福岡県選抜高校野球大会 出場



同窓会のホームページ開設2年目!!

同窓会のホームページを昨年1月に開設以来、2年目を迎えました。会員の皆様の親睦のため大いに活用していただけるよう、これからも「日々更新」をモットーに情報の提供に努めてまいります。ところで、グラウンド南にゆうかりの樹が2本ありますが、1本が枯れ伐採されました。しかし、正門北の若木はすくすくと育っています。その様子はホームページをどうぞ。



<http://yamechuyameko.sakura.ne.jp/>

編集後記

今回、甲子園に出場された下川先輩の記事を掲載させていただきました。改めて、地域の方々の八女に対する「想い」を、そして、先輩方の「母校愛」を感じさせていただきました。また、本校の創立100周年記念事業の一環として行われたアメリ百周年記念記事では、現在、社会の第一線で活躍している後輩の母校に対する「感謝」が綴られています。現在、母校に勤務させていただき、高校時代に所属していました吹奏楽部の顧問をさせていただいています。野球部の甲子園出場を機に創設した吹奏楽部。今回の下川先輩の記事を読ませていただき、当時の先輩方の想いを受け継ぎ、更に発展させていきたいと決意を新たにいたしました。下川先輩をはじめ、多くの方々のご協力のもと本号を発刊することができました。ありがとうございます。

杉本 正信 高39回